

～生活支援コーディネーター通信～



創刊号

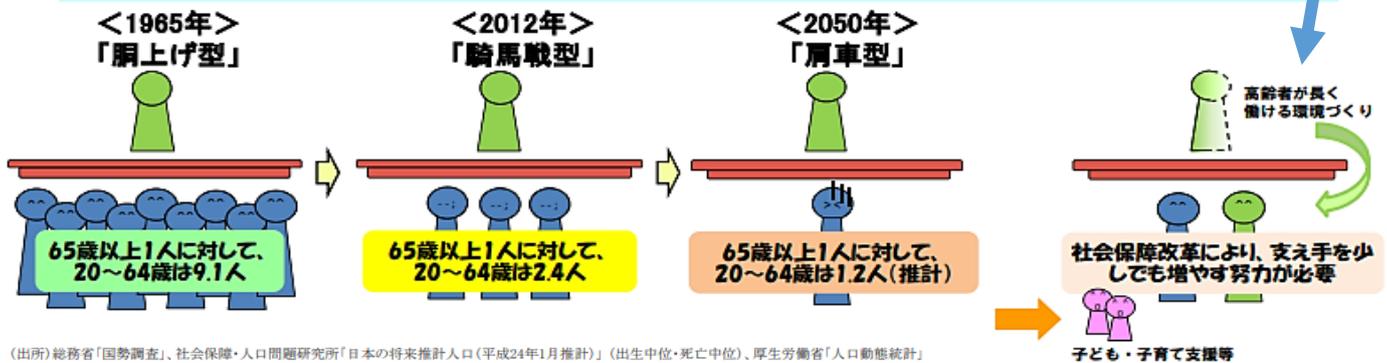
喜多方市第1層生活支援コーディネーター（別名：地域支え合い推進員）笹川真紀です。高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう、生活支援・介護予防の体制づくりを進めるための活動をしています。生活支援支え合い会議の様子やアクティブ高齢者の活動などを紹介していきますので楽しみに！

まずは・・・

～生活支援体制整備って必要なの？～ 「肩車型」社会へ

高齢者が増えるということは、アクティブ高齢者も増える！介護予防、社会参加をして地域の支え手に！

今後、急速に高齢化が進み、やがて、「1人の若者が1人の高齢者を支える」という厳しい社会が訪れることが予想されています。



- 生活**：住民の暮らしの中での
- 支援**：困りごとや不安を支えられるよう
- 体制**：その仕組みや活動を
- 整備**：充実や強化、新しくつくる

年齢や障がいの有無に関わらず、住み慣れた地域で可能な限り継続して生活できるよう、必要なサービスを安心して提供できる体制をつくりたい！

～生活支援支え合い会議～

医療・介護サービスの充実だけでは、地域で暮らし続けることは容易ではありません。介護が必要になる前から、地域で「気かけ合い・見守り合い・支え合う」ことが必要です。

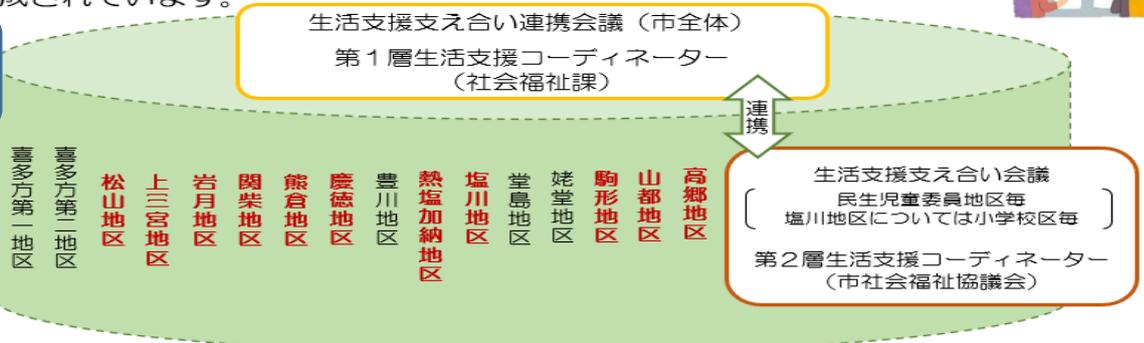
高齢者が地域の中で役割や生きがいを持ち、10年後、20年後も自分の住みたい地域で安心して暮らせるよう、地域住民と関係者が話し合い（生活支援支え合い会議）を続けています。

できそうなことはやってみる、仲間を見つけ一緒に活動する、地域で活動している団体へ繋ぐ。できること、できる人が手をつなぎ新たな活動へ。一緒に活動してみませんか。

市全体のことを話し合う「生活支援支え合い連携会議（第1層）」と各地区毎の話し合いを行う「生活支援支え合い会議（第2層）」で構成されています。



赤色の地区は設立した地区です（R5.4 現在）



生活支援支え合い連携会議（第1層）

喜多方市全域を対象とする生活支援支え合い連携会議では、各第2層の代表、シルバー人材センター、障がい者相談支援事業所や社会福祉協議会などが委員となり、会議のほか研修会も行っています。

「お互いに声をかけあえる地域」これは、委員みんなで考えた目指す地域像です。声をかけ合い、気かけ合い、助け合える それぞれが地域に目を向け、自然にみんながつながっている地域となるよう、話し合いを続けています。

研修会では、地域を意識した福祉と防災をテーマに行うなど、自分事と捉えられるような工夫もしています。

生活支援支え合い連携会議で作成した「おたがいさまで見守り合い実践 BOOK」は、喜多方市に住む一人一人が“おたがいさま”の気持ちを持ち、困ったときに「助けて」と言えるよう、隣近所で実践できる見守り合いについてまとめた冊子です。

ぜひご近所や大切な方へ、普段の話のお供としてご活用ください。



会議の様子・・・みんなで意見を出し合います



QRコード



研修会では、近所の方に声掛けをしながら避難するなど、改めて自助や互助の大切さを学びました

～高齢者向け生活支援ガイド～

一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増える中、生活に不便さや不安を感じることもあるかもしれません。そのような中で、地域における支え合い活動や民間企業などが行う高齢者向けのサービスは、重要な社会資源です。

「高齢者向け生活支援ガイド」は、市内のつどいの場や生活用品等の配達、草むしりや雪かたしの事業者などが掲載されていますので、安心材料の一つとしてご利用ください。

※「おたがいさまで見守り合い実践 BOOK」「喜多方市高齢者向け生活支援ガイド」は、市社会福祉課や支所住民課の窓口にて配布しております。また、ホームページやQRコードから読みとることもできます。



QRコード

（問合せ先）市社会福祉課地域包括ケア推進班 第1層生活支援コーディネーター 笹川

☎24-5257

令和5年5月作成